

繁殖成績改善のために①

近年、乳牛の高泌乳化に伴って分娩間隔が長期化する傾向が続いています（平成二五年の道内平均は四三二日）。分娩間隔の長期化は産子数や乳量の低下に繋がるため改善が望まれます。

今回は、平成二六年度にオホーツク管内で実施した繁殖管理の現状把握と改善に向けた方策についてご紹介します。

一 調査対象

オホーツク管内で経産牛一頭あたり乳量が九五〇〇kgを超え

表1 飼養・繁殖管理の優良・改善事例の比較

項目	優良平均	改善平均
経産牛頭数(頭)	89	56
平均産次(次)	2.5	2.8
経産牛1頭あたり乳量(kg)	10641	9975
乳脂肪率(%)	3.95	3.99
乳蛋白率(%)	3.30	3.28
MUN(%)	11.5	11.0
体細胞(千個/ml)	163	238
分娩間隔(日)	399	461
空胎日数(日)	124	171
初回授精開始(日)	83	96
初回授精受胎率(%)	36	35
平均授精回数(回)	2.0	2.1

ている農家（平成二六年七月の牛群検定平均）を対象としました。調査した酪農家のうち、分娩間隔が四一〇日以下の十三戸を優良事例、四三〇日以上以上の四戸を改善事例としました。

二 結果

○初回授精開始日数

優良事例の初回授精開始日は八三日、改善事例は九六日となっており（表一）、分娩間隔の長期化の要因として初回授精開始日数の遅れが起因していることがわかりました。

○繁殖管理技術

チェックシート（表二）により発情観察時間や妊娠鑑定などの繁殖管理作業に係る項目の実施率を比較したところ、優良事例では八九・七％、改善事例では三八・九％となり、二倍以上の差となりました。

○繁殖管理作業のルール化

優良事例では、発情観察、記録、初回授精開始日、人工授精、妊娠鑑定、繁殖治療に関する作業についてルールを作り、常に一定した対応を迅速に実施していることがわかりました。

○分娩前後の栄養管理

優良事例では乾物摂取量、飲水量の向上を図るための餌寄せ、水槽の清掃を徹底している事例や、カルシウム剤、ビタミン剤、栄養剤などの投与について自らマニュアルを作成し綿密な栄養管理を実施している事例が見られました。

三 まとめ

以上の結果から、繁殖成績向上のためには、①初回授精開始

日数の早期化、②繁殖管理作業の確実な実施、③繁殖管理作業のルール化、④分娩前後の綿密な栄養管理による健康状態の維持、が必要だと整理されました。成果が目に見えるまで時間がかかりますが、自家で不足している部分に取り組んでいきましよう。

各項目に関する優良農家の具体的な改善事例につきましては、またの機会に紹介します。

表2 繁殖管理チェックシートの優良事例と改善事例の実施率

チェック項目	内容	実施率(%)	
		優良農場	改善農場
繁殖管理担当者	決まっている。担当者が複数の場合「責任者」が決まっている	92	50
観察時間	年間通して定時で確実に実施している。また、作業時には常に観察している。	100	100
発情兆候	複数あり、そのうち必ず見ているという項目を1つ以上ハッキリ言える。	100	50
記録媒体	2つ以上使用している	92	25
記録内容	初回発情、排血のあった日を必ず記録している。	92	50
初回授精開始日	開始するルールが決まっており、年間通して確実に実施している。	92	50
人工授精	必ず立ち会う。	62	0
妊娠鑑定	実施するルールが決まっており、年間を通して確実に実施している。	85	25
繁殖治療	実施するルールが決まっており、年間を通して確実に実施している。	92	0
合計実施率		89.7	38.9